



寺澤 十郎 議員



録画映像

独居高齢者のセキュリティに関する件

**問** 独居高齢者のセキュリティについてどのような対策があるのか

**答** 市長  
市の施策として特殊詐欺等防止対策機器の購入補助をはじめ、青色防犯パトロールの促進や警察・地域との情報共有などを密にする

**問** 最近メディアなどで様々な危うい事件が報道されています。

例えば強盗、詐欺、殺人などです。このような事件は、20〜30年前には頻繁に起こることはなかった気がします。現在は、毎日のように事件がメディアなどで報道されています。

高齢者の方から事件、事故にどのような対応したら良いのかと聞かれました。北斗市では、独居高齢者のセキュリティについて、どのような対策があるのかお知らせください。

また、70歳以上で施設に入所している以外の独居高齢者は何人なのか。そのうち、セキュリティ対策に取り組んでいるのは何件なのかお知らせください。

**答** (市長) 北海道警察の公表資料によりますと、この5年間で、北斗市で発生した刑法犯は、全体としては減少傾向にあるものの、近年では、特殊詐欺が多く発生している状況です。

犯罪は地域の安全、安心な暮らしを脅かすもので、警察をはじめ、自治体、そして地域が一体となって、その未然防止に努めていかなければならないものと認識しています。

高齢者単身世帯のセキュリティ対策について、一人暮らしの高齢者は特に狙われやすいと言われており、犯罪被害に遭わないための対策として、まずは戸締りの徹底など、自主的にできること、そして、家族や地域内の情報共有を促めることで特殊詐欺から身を守る術を習得されることも重要と考え、特に令和4年度は、町会連合会のご協力をいただき、会長や女性部の皆さまが集まる場で、特殊詐欺の被害防止のための講習会を行い、地域の皆さまに広く注意喚起や助言をしていただくよう、お願いをしているところです。

また、北海道警察においても、「防犯

アプリ」や「ほくとくん防犯メール」の活用を広く呼び掛け、犯罪発生や注意喚起など、即応性のある情報提供とともに、特殊詐欺専門の電話相談事業を行っています。

市の施策としては、特殊詐欺等防止対策機器の購入補助をはじめ、市独自の消費生活相談の実施や地域の青色防犯パトロールの促進、また、直接的な犯罪被害防止が目的ではないものの、場合により予兆が分かり得るものとして、緊急通報システムの設置や高齢者見守り確認機器の購入助成、認知高齢者等見守り二次元コードシールの交付、さらに小地域ネットワーク事業による地域の見守り活動も行っているところであり、今後も、本市のこれら取り組みと併せ、警察や地域との情報共有や行動の連携を密にしながら、高齢者が犯罪被害に遭わないよう安心・安全なまちづくりに努めてまいります。

次に、施設入所以外の70歳以上の単身世帯については、昨年12月の社会福祉調査によると1千708世帯となっています。そのうち、セキュリティ対策に取り組んでいる件数については、セキュリティと考えられるすべての実態を市が把握することは困難ですが、市の施策についての70歳以上の単身世帯の利用実績は、特殊詐欺等防止対策機器購入補助は、令和元年度から現在まで24件、緊急通報シ

ステムの令和4年度の設置件数は142件、令和4年度から開始した高齢者見守り確認機器の購入補助は、現時点で利用実績はありませんが、認知高齢者等見守り二次元コードシールの交付件数は7件となっています。

**問** 20〜30年前には、警察が高齢者の家に訪問し、巡回連絡をしてくれていましたが、今はなくなっています。

高齢者を守るためにも対策として、警察にお願いできないか。

**答** (総務部長) 交番グループ会議など、警察との交流の場がありますので、このような話があったことを伝えます。



被害を未然に防ぐため、詐欺などの悪質な電話を予防・抑止する効果が期待できる機能付き電話機